

学校組織マネジメント研修 レポート

見える化から言語化へ

～プレゼンテーション能力を生かした学校経営参画を考える～

10月2日、採用10～19年目の事務職員を対象に「ステージⅢ（職務能力深化期）学校組織マネジメント研修」を開催しました。講師には、足利市立山辺中学校 岡崎信二 事務長を迎え、学校経営へ積極的に参画し、効果的な教育支援が行えるミドルリーダーとして必要な学校組織マネジメント能力、その中でも協働する組織づくりに不可欠なプレゼンテーション能力について、研修を行いました。

講義

講義は、学校組織マネジメントとは何か、その担い手である事務職員の役割は何かから、学校組織マネジメントにおけるプレゼンテーション能力の重要性、その能力を生かした事務職員の実践へと話は進んでいきました。

学校組織マネジメントは学校内外の能力・資源を開発活用し、様々な人たちのニーズに適應させながら学校教育目標を達成していくための活動そのものです。

学校は様々な職種の教職員が、目標を共有しそれぞれの立場で役割を果たすことで運営される組織です。すべての教職員が「お互いがお互いを高めあうことができる同僚性」や、「目標達成に向けて同じ方向に向けて動いていく協働性」を構築することで、組織力の向上につながります。

私たち事務職員は、財務や情報等をマネジメントして学校事務を統括していきます。学校内外の経営資源を活用し、収集した情報を分析・編集・加工して提供するなど、事務職員としての強みを活かした実践を積み重ねることで、学校組織全体の活動を活性化し、教職員の協働性を構築していくことが重要です。



そこで、協働する組織で重要なのが、コミュニケーションです。その中で必ず身につけなくてはならないスキルがプレゼンテーションになります。自分(自分たち)が企画した内容をわかりやすく伝え、相手が納得・同意、決断して実行に移してもらうための行動です。そのための、企画案や、プレゼン資料の作り方、聞き手の注意を引きつけるための話の構成・時間配分、さらには自分の話し方や癖などを把握し、目線の置き場などが、プレゼンテーションをする時に大切なポイントになります。そして、必ず事前に練習

すること、シミュレーションをして相手の反応を想定しつつ進めることが重要になります。

最後に、「これからの事務職員は【企画提案型】の事務職員を目指してほしい」と講師よりお話があり、講義が終わりました。



グループ ワーク

プレゼンテーション能力をさらに磨くため、グループで話し合いをしながらプレゼン資料を作成し、実際に全員の前で提案を行いました。

① 事前課題の振り返り

「職員会議（朝の打ち合わせ）で提案してみよう」という課題に受講者は事前に学校で提案し、内容と目的、さらには、提案したことが伝わったかどうか、どんな点が伝わらなかったかなどをレポートとしてまとめてきました。

この事前課題を班内で発表し、お互いに意見を出し合いました。さらに、班毎にその中からさらに深めたい取り組みをひとつ選定しました。



② グループで説明資料を作成

選んだ取り組みについて、どう提案すれば相手に納得して動いてもらえるか（協力を得られるか）、班で知恵を出し合いプレゼン資料の作成（アピールポイントの整理）や発表の仕方について検討しました。今回は、プレゼン資料作成のために模造紙や、色紙、マーカーなどを使用しました。

じっくりと話し合ってから作業に取りかかる班、いきなり色画用紙や模造紙を取りに行き試行錯誤しながら資料を作成する班など、各班の進め方は様々でしたが、全員で力を合わせて取り組む姿は真剣そのもので、どの班も盛り上がっていました。



③ 提案

各班が、職員会議やPTAの会合など提案する場をそれぞれ想定しながら、提案を行いました。相手に伝わるように大きくはっきりとした声で提案したり、分かりやすいようにグラフを入れたり、絵を付け加えたり、小道具(?)を提示したり、ちょっとお芝居を交えたり・・・と、どの班も工夫をこらし、相手に伝えたい、わかって欲しいという気持ちが伝わってきました。また、提案の聞き手側は、提案の良かった点やこうすればもっと良くなる点をカードにまとめて、それぞれの班に伝えました。発表後、参加者たちは壁に貼られたカードを食い入るように見ては、自分たちの発表を振り返っていました。

プレゼンテーション能力は、実践を重ねることで向上していきます。また、チームで知恵を出しあうことは、お互いを高め合う人間関係の構築にもつながります。

今回の研修で学んだことを生かし、学校で実際に提案していただきます。どのような提案をどのように相手に伝えるのか、その取り組み結果が楽しみです。